

第4学年 国語科学習指導案

日 時 平成16年8月31日(火) 5校時
児 童 4年1組 男10名 女12名 計22名
指導者 小島 浩子
場 所 視聴覚室

- 1 単元名 「心に残る発表会をしよう」
教材名 「十さいを祝おう」

2 単元について

(1) 教材観

本教材は、自分のこれまでの十年間を振り返らせつつ、これからの自分の生き方について考え、その思いをスピーチという形で発信する内容となっている。

スピーチをする発表会を開くための話し合い活動では、話し合いをする際に大切なことを参加者として司会者として2つの面から学習する。司会についての学習をすることで、自分が一参加者である場合にも司会者の立場を考えてみるができるようになるだろう。今後の話し合い活動のためにも、ここでの学習は大いに有用である。

また、「十さい」あるいは「二分の一成人」を祝うという、児童がどこか誇らしい気持ちになれるだろう設定で作られているため、話し合いやスピーチに臨む姿勢もより目的意識と意欲に満ちたものになることが期待できる。

(2) 児童観

児童は、4年上第1単元「友だちって、いいな」では、写真を見て友達について考えたことを自分の体験と絡めながら話すという体験をした。あわせて、友達の話聞き自分の感想を持つことも学習している。同単元の「こんなこと、したいな」では生活の中から話題を選び、学級の友達の前でスピーチをする活動を行った。「無人島でくらすとしたら」では、無人島に持っていく7つの道具を決めるためにグループ毎に話し合い意見をまとめる学習をした。ここでは、司会者を立てなかったので話し合いの形式としては、本単元とは異なるが、互いの考えを理解し合おうとする姿勢、自分の考えを分かりやすく伝えようとする姿勢を養うことができた。特に、話すことの意欲が旺盛で理由を付けながら積極的に発言していた。しかし友達の意見をよく聞かずに発言したり何を話していいかわからずに黙ってしまったりする児童も見られた。

朝の会、帰りの会で順番にスピーチを行っているが、前日の日記で構想をまとめる児童が多い。それらの児童は自信を持って話しているが、準備不足の児童は話し始めるまでに時間がかかったり聞き手に伝わらなかったりする実態がある。日常の活動からも児童はスピーチをする際は組み立てを考えることの必要性を感じている。

(3) 指導観

学習活動は大きく4つに分けられる。1つ目は自分の過去を振り返らせつつ「十さいを祝う会」を開く動機付けをすること、2つ目は発表会の開催を実現するための話し合い活動、3つ目はスピーチの準備、4つ目は発表会を開きスピーチをすることである。動機付けを大切にしながら、話し合うこと人前で話すことの2つを中心に指導を展開していきたいと考える。

話し合うことに関しては、全員が司会を体験できるようにさせたい。学級全体の司会を1人でするのは自信のない児童もいるので、少人数の中でとか複数でなどという工夫をしながら進めていきたい。事前に、司会をする時に気を付けることを全体で確認しそれぞれの児童が司会をする時に生かせるようにする。このようにすることで、司会をしていない児童も司会者に協力的になるであろう。

人前で話すことに関しては、できるだけ原稿を読まずにメモをもとにスピーチできるようにさせたいが、児童の実態に応じて自分で選ばせ堂々と発表させたい。そのために、スピーチの構成を考えさせたり話す速さを実感させたりする指導を丁寧に行いたい。また、聞く側には常に好意と目的を持って参加するよう指導し、友達の良さを認めあえるような全体の雰囲気作りにも配慮したい。

3 単元の指導目標

関心・意欲・態度

楽しい発表会を開くために進んで話し合い、自分の思い等をスピーチを通して伝え合おうとする。

話すこと・聞くこと

周りの発言をよく聞きながら話し合い、スピーチでは聞き手に伝わるように組み立てを考えると共にスピーチを聞いて自分の感想をまとめ伝えることができる。

言語事項

適切な音量や速さを意識しながら、相手やその場に応じた適切な話し方をすることができる。

4 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	言語についての知識・理解・技能
<ul style="list-style-type: none"> ・「十さいを祝おう」という気持ちを大事にして、楽しい発表会を開くために進んで話し合おうとしている。 ・自分の思いや願い、夢、決意などをスピーチを通して伝え合おうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表会の実現に向けて、話題に沿って発言したり友達の意見を受け止めて発言したりしている。 ・自分の考えが表れるような話題を選び、聞き手に伝わるように組み立てを考えてスピーチしている。 ・友達のスピーチを聞き、自分の感想をまとめて伝えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・場に応じた適切な音量や速さで話している。 ・相手や場に応じた丁寧な話し方をしている。 ・「賛成・反対・付け加え」等の言葉を知り、発言するときに使っている。

5 指導と評価の計画 (13 時間)

次	時間	ねらい ・学習活動 評価規準	具体の評価規準 評価方法 ABC 共通		C (努力を要する児童への具体的な支援)
			A (十分満足)	B (概ね満足)	
第一次	1	学習の見通しをもち意欲を持って取り組む ・教科書のリード文を読んだり写真を見たりしながら自分の10年間を振り返る。 節目の「十さい」を感じながら10年間を振り返ろうとしている。	関・リード文、扉の詩や写真から10年間を振り返り積極的に話したり書いたりしようとしている。 発言、ワークシート	・リード文、扉の詩や写真から10年間を振り返り、話したり書いたりしようとしている。	・友達の発表や家の人に聞いてきたことを手ごかりに10年間を振り返らせる。
	2	・学習計画表を作る。 ・自分たちの発表会のタイトルを決める。 「十さい」を祝おうという気持ちを大事にし進んで	関・自分たちで会を作っていくという意識を持ち、学級独自のタイトルを考えようとする。 発言	・自分たちで会を作っていくという意識を持ち教科書を参考にしながらタイトルを考えようとする。	・出た意見の中から選ばせ、理由を付けながら話し合うことで自信を持たせる。

第二次	3	<p>発言している。</p> <p>進んで話し合い発表会の計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表会実現に向けての話し合いの議題を決める。 ・話し合いの際に気を付けることについて確認する。 <p>楽しい発表会を開くために進んで発言しようとする。</p>	<p>関・よりよい話し合いをしたいという意欲を持って、これまでの経験や教科書をもとに進んで発言している。</p> <p>発言</p>	<p>・よりよい話し合いをしたいという意欲を持って、教科書をもとに進んで発言している。</p>	<p>・次時からの話し合いがスムーズにいくようにしっかり聞くようにさせうなずく等の意思表示をさせる。</p>
	4	<ul style="list-style-type: none"> ・グループで話し合う。 <p>役割意識を持って、グループの話し合いに参加している。</p>	<p>話・確認し合った注意点を気をつけながらスムーズにグループ内の司会を務めている。</p> <p>話し合いの様子</p>	<p>・確認し合った注意点を気をつけ、友達の協力を得ながらグループ内の司会を務めている。</p>	<p>・「司会者が気を付けること」を見ながら進行させ、複数で司会をすることで安心感を持たせる。</p>
	5 6	<ul style="list-style-type: none"> ・学級全体で話し合う。 <p>自分の立場をはっきりさせ、「10パーティ」の計画を立てるとい趣旨にあった話し合いをしている。</p>	<p>話・話し合いが円滑に行われるように順番を考えて、話題に沿って話し合っている</p> <p>話し合いの様子</p> <p>言・友達の意見を受けて「賛成・反対・付け加え」等の言葉を使って発言している。</p> <p>発言、話し合いの様子</p>	<p>・順番を考えて、話題に沿って話し合っている。</p> <p>・友達の意見を受け止めて発言している。</p>	<p>・司会者役の児童に平等に意見が言えるように働きかけておく。</p> <p>話題からそれたら注意させる。</p> <p>・よい発言の仕方を紹介し学ばせる。</p>
第三次	7	<p>分かりやすいスピーチになるように準備する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スピーチのテーマを決める。 ・スピーチの構成を考える。 <p>自分の考えが表れるような話題を選び材料を吟味し組み立てを考えている。</p>	<p>話・伝えたいことの中心を明確にし、事柄のまとまりを意識してスピーチの構成を考えている。</p> <p>ワークシート</p>	<p>・伝えたいことが明確になるように事柄を絞りスピーチの構成を考えている。</p>	<p>・はじめに、エピソード、終わりにという柱に沿って短い言葉で考えさせる。</p>
	8 9	<ul style="list-style-type: none"> ・一分間に分かりやすく話せる文章の適量を知る。 ・スピーチ原稿を書き、スピーチメモにまとめ 	<p>話・スピーチの構成を生かし、制限時間の中で自分の思いや願いが伝わるように意識している。</p> <p>スピーチ原稿、メモ</p>	<p>・制限時間の中で発表することを意識している。</p>	<p>・既習教材を1分間読むことで適量を確認させる。</p> <p>・原稿からメモを作るときは例を示すなどして</p>

		る。 聞き手に分かりやすいスピーチができるよう工夫している。			支援する。
10 本 時		・友達同士で聞き合い練習する。 場と聞き手を意識して内容を修正したり話し方を工夫したりしている。	話・場と聞き手を意識して音量や速さ、言葉遣いを考え話の内容がよりよく伝わるように内容を修正したり話し方を工夫したりしている。 活動の様子	・場と聞き手を意識して音量や速さ、言葉遣いを考え、友達のアドバイスを受け入れながら内容を修正したり話し方を工夫したりしている。	・机間指導により場と聞き手を意識させたり、友達からのアドバイスをよく聞くように助言したりする。
第 四 次	11 12	話し方と聞き方に気を付け発表会に臨む。 ・発表会を開く。 自分の思いや願いが聞き手に伝わるように話している。 話の中心に気を付け内容を正しく聞き取っている。	話・自分の思いや願いがよく伝わるように話の中心を意識し、聞いている人の方を向いて適切な声の大きさや速さ、言葉遣いで話している。 話し方 話・友達の思いや願いを聞きながら話の中心にあった意見や感想をまとめて分かりやすく伝えている。 聞き方、感想カード	・なるべくメモを見ないようにし、聞いている人の方を向き、適切な声の大きさや速さで話している。 ・友達の思いや願いについて、中心に気を付けながら内容を正しく聞き取り、感想を言うことができる。	・練習通り力を発揮できるように励ます。 ・感想を話す回数目標を持たせ、集中して聞くようにさせる。
第 五 次	13	良さを認め合いながら発表会を振り返る。 ・発表会を自分なりに振り返り、感想を持つ。 良さを認める感想を述べている。	話・招待客に書いてもらった感想カードを見たり録画したビデオを見たりしながら良さを認める感想を述べている。 発表内容	・招待客に書いてもらった感想カードを見たり友達の感想を聞いたりしながら良さを認める感想を述べている。	・学習の跡を掲示資料や周りの人の感想から振り返り良さを認めあえるようにさせる。

6 本時の指導

(1) 目標

< 話すこと、聞くこと >

場と聞き手を意識して内容や話し方を検討しながらスピーチの練習をする。

(2) 本時の評価規準及び具体的評価規準

評価規準	具体的評価規準		努力を要する児童への具体的支援(C)
	十分満足できる状況(A)	おおむね満足できる状況(B)	
場と聞き手を意識して内容を修正したり、話し方を工夫したりしている。	場と聞き手を意識して音量や速さ、言葉遣いを考え話の内容がよりよく伝わるように内容を修正したり話し方を工夫したりしている。	場と聞き手を意識して音量や速さ、言葉遣いを考え、友達のアドバイスを受け入れながら内容を修正したり話し方を工夫したりしている。	机間指導により、場と聞き手を意識させたり、友達からのアドバイス(評価カードを使った具体的な内容)をよく聞くように助言する。

(4) 展開

段階	学習活動	・教師の支援、留意点 Cの子への支援	具体の評価規準と 評価方法 (< >)
導入 3分	1 本時の課題を確認する。 おじいちゃんおばあちゃんが聞きやすいスピーチになるようにアドバイスし合って練習しよう。	・学習計画表で本時の学習内容(スピーチの練習をする)を確認する。 ・目的意識を維持できるように「10パーティ」を成功させよう、という言葉に掲示しておく。 ・発表会は祖父母学級の時であることを確認する。	
展開 30分	2 話し方のポイントを学習する。 3 学習の流れを確認する。 4 スピーチの練習をする。	・児童のモデルや先生の例などから良さや改善点を発見させスピーチの際に気を付けることをおさえる。 ・場と聞き手(視聴覚室、祖父母)を意識し声の大きさ、速さ、言葉遣い、視線等について分かりやすく黒板に整理していく。 指名し発言させることで話し方のポイントに気づかせる。 時間制限(1分ぐらい)を意識し過ぎて緊張することのないように、必要に応じてスピーチ原稿を見てもよいことを伝える。 個人練習 自己評価 ペアで練習 相互評価 修正作戦タイム 繰り返し ・途中や終わりに、何人か全体の前で発表させることを知らせておく。 ・確認した流れに沿って練習させる。 ・ ~ の流れの中で児童の様子を見ながら良さを全体に広めていく。 机間指導により、場と聞き手を意識させたり、友達からのアドバイスをよく聞くように助言する。 ・観点に沿って具体的にアドバイスするように聞いている友達に指導する。	A 場と聞き手を意識して音量や速さ、言葉遣いを考え話の内容がよりよく伝わるように内容を修正したり話し方を工夫したりしている。 活動の様子 B 場と聞き手を意識して音量や速さ、言葉遣いを考え友達のアドバイスを受け入れながら内容を修正したり話し方を工夫したりしている。
終末 12分	5 本時の学習を振り返り、次時の学習につなげる。	・話し方のポイントを振り返り自分が気を付けたり上達したりしたことを自己評価カードにまとめる。 ・次時は発表会であることを確認する。	

7 板書計画
別紙参照

8 自己評価カード
別紙参照

ふり返りカード

名前

(自分や友達のよかったところ)	おじいちゃん おばあちゃんが しちようかく室で	反省
	聞こえる声の大きさ	作戦 赤で印
	聞き取りやすい速さ	反省
	楽しめる顔の向き	
ていねいな言葉づかい		
よく分かる内容に直す		